

普及センターだより

No.123

# MISATO

発行 宮城県美里農業改良普及センター

〒987-0005 遠田郡美里町北浦字笹館5

TEL (0229) 32-3115 E-mail msnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX (0229) 32-2225 URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

有限会社マルセンファーム 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞表彰式 (本文参照)

## 普及の窓 ～さまざまな連携による経営発展～

美里農業改良普及センター

技術副参事兼次長(総括担当) 渡邊 真文

昨年は、「7月豪雨」や「台風21号」など過去に経験のない大型台風の接近・通過に伴う記録的な大雨、「北海道胆振東部地震」など気象災害の多い年でした。近年、局地的大雨や集中豪雨が各地で多く観測されるようになり、その傾向は今後も続くといわれています。一方、本県の農業生産では期待される話題もありました。県で開発した水稻新品種「だて正夢」の本格デビューやイチゴ新品種「にこにこベリー」がプレデビューしました。「食材王国みやぎ」の新たな食材として、消費拡大につなげていくよう、普及センターでは生産技術の普及定着を支援します。

平成31年は農業経営にとって大きな変革の年となりそうです。1月から「収入保険制度」がスタートし、4月以降の外国人労働者受け入れ拡大の動きや10月には消費税の増税が予定されるなど今まで以上の経営判断が求められています。さらに貿易面では、昨年12月にTPP11の発効、2月には日欧EPAが発効し、今後はTAGなど、自由貿易への大きな動きがあり、より一層の農産物市場開放に直面しています。

こうした状況を打開し、自分の農業経営に足りないものを相互連携を図りWin-Winの関係を構築し、経営発展につなげていくことが一助になるのではないかと思います。既に「農商工連携」による新商品開発・販路拡大、「農福連携」による仕事の創出や社会参画支援、「農観連携」による地域食材を生かした観光などに取り組まれている事例もあります。今後は、こうした異業種連携だけではなく、従来からの農業者同士の連携に加え、集落営農組織間の連携や農業法人などとの連携を模索し、お互いの弱い面を補っていくことも必要だと思えます。

今後とも普及センターでは、関係機関と連携し、皆様の経営発展につながるよう取り組んでまいりますので、どうぞお気軽にご相談ください。

＊ ＊本年度，普及センターでは以下の4プロジェクト課題に取り組みました＊ ＊

# 平成30年度プロジェクト課題の成果



## 地域農業の維持・発展に向けた集落営農組織の法人化

～2つの農事組合法人が誕生しました～

美里町内の集落営農組織2組織について法人化の支援をしてきましたが、和多田沼営農生産組合が9月5日に、中田営農組合は9月3日に登記され「農事組合法人 和多田沼」、「農事組合法人 中田アグリ」としてそれぞれスタートしました。

これまで法人化に向けて、平成29年度美里町単独事業の集落営農組織の法人化支援加速化事業の支援を受け、法人化勉強会、発起人会による話し合いを美里町産業振興課、コンサルタントの株式会社舞台ファーム、JAみどりの、普及センターと何度も重ね設立しました。いずれも集落農業の発展型のモデルとして活動を開始しており、その他の地域でも、このような取り組みが行われることが期待されます。



GAP先進地視察研修会

## 法人経営体における第三者認証GAPの導入・定着

農業生産工程管理（GAP）を導入することで、農産物の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保、資材コストの低減など経営改善や販売力の強化等の効果が期待されています。

普及センターでは、研修会開催による啓発活動や新規取得支援を行い、平成30年度中に1法人で新規にJGAP認証を受ける予定です。既に取得している法人へは、オリジナルシステムの導入による省力化と作業効率化や経営改善に活かす取り組みを進めてきました。今後もGAPの認知度向上や経営への導入・定着を進め、経営体質の強化に取り組んでいきます。



金のいぶき刈り取り指導

## 「金のいぶき」の導入・定着化による地域ブランド米の確立

涌谷町では、平成29年度より消費者の健康志向に見合った玄米食用品種「金のいぶき」を導入し、町・農業団体・生産者12名が三身一体による連携を図りながら、町独自のブランド化に取り組んでいます。

普及センターでは、土壌分析に基づく施肥設計と現地検討会による巡回指導により、細かな栽培管理の指導やデータ収集を行い、地域に合った独自の「金のいぶき」栽培マニュアルを作成しました。涌谷町の「金のいぶき」の安定生産を目指して、地力に応じた肥培管理と品種特性に合った栽培管理の実践により、涌谷町産ブランド米として定着するための支援を引き続き行っていきます。



病害虫調査

## 青ねぎの栽培技術定着による生産性の向上

「青ねぎ」栽培は、これまで露地栽培が中心でしたが、今年度から新たに大規模な施設栽培がスタートしました。普及センターでは、JAみどりのと連携し、露地栽培と施設栽培の2箇所調査ほを設置し、月2回、さび病、べと病、アザミウマ類等の重要病害虫を中心に調査を行って来ました。調査結果はその都度、生産者やJAみどりに情報提供し、適正防除に役立てることができました。

今後も防除技術の向上とさらなる青ねぎの生産振興に向けて、支援を行っていきます。

普及センターからのお知らせ

全国優良経営体表彰 「生産技術革新部門」  
農林水産大臣賞 受賞おめでとうございます！！



代表取締役社長 千葉卓也氏

平成30年度全国優良経営体表彰の「生産技術革新部門」において、大崎市鹿島台地域の「有限会社マルセンファーム」が農林水産大臣を受賞し、平成30年11月8日(木)に開催された「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」の全体会にて表彰されました。表彰式当日は皇太子殿下も御臨席賜り、殿下の御前で千葉社長が表彰されました。

今回受賞した「生産技術革新部門」は、販売額第1位のトマトについてデリシャストマト等の高糖度栽培管理(節水、施設内環境(CO<sub>2</sub>、温度、湿度等)、非破壊糖度計による製品管理、土壌還元消毒法等々)、生食以外のプレミアムトマトジュース等の加工(委託)販売、他の施設園芸品目でも夏出しホウレンソウやキク類の周年出荷等が評価されました。

また、今回の受賞を受け12月4日には伊藤大崎市長、川名北部地方振興事務所長に受賞報告の表敬訪問をしたところ、その功績を賞賛されました。

春まきタマネギ栽培 始めませんか？

春まきタマネギについて、県では「春まき7月どり栽培技術体系」の普及を図っており、有望な作型として注目を集めています。慣行の「秋まき栽培」に比べ、「春まき栽培」は、越冬による欠株や抽だい等の心配がなく、国産タマネギの流通量が少ない7月の端境期での出荷が可能です。この作型は1月上旬には種後、無加温ハウスで育苗し、4月上旬に定植、6月下旬から7月上旬に収穫します。農業・園芸総合研究所による岩沼市での現地実証では、収量5 t/10a以上の事例が報告されています。また、その他にも、糖度が高く旨味が豊富で直売向けとして需要が高まっている「春まき冬どり栽培」といった作型もあります。是非、春まきタマネギ栽培に取り組んでみてはいかがでしょうか！興味のある方は、お気軽に普及センターまでお問い合わせ下さい。



▲春まきタマネギは揃った太い苗がポイント

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき栽培		○ 播種		△ 定植			□ 収穫					
秋まき栽培(慣行)						□ 収穫		○ 播種		△ 定植		

海外で使用された農薬の成分(クロピラリド)が含まれた輸入飼料が家畜に給与された場合、堆肥を通じて園芸作物やマメ科牧草等の生育に障害を起こす可能性があります。詳しくは、農林水産省のHP <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/clopyralid.html> をご覧ください。

## 管内の農業の動き

### 美里4Hクラブの活動紹介

美里4Hクラブは、管内の若手農業者約20名で構成されている団体です。主な活動は、毎月の定例会、イベント販売活動、先進事例視察研修及び他地区との交流会等であり、営農力の向上に励みながら、クラブ員同士や地域の方々との交流を積極的に図っています。また新規就農者歓迎会や宮城県農業大学校生との交流会も開催し、若手農業者が加入しやすい組織づくりを心がけています。



平成30年7月21日に開催された、他地区との交流を図る第64回宮城県農村青少年技術交換大会では、農業の知識を競う農業技術競技の地区総合の部において、農林水産部長賞（最優秀賞）を授与されました。日頃、クラブ員で切磋琢磨して技術力を磨いてきた結果が表れました。

美里4Hクラブでは、今後も営農技術や経営力の向上に取り組んでいきますので、興味のある方は、普及センターまでご連絡ください。

### 美里生活研究クラブの活動紹介

美里地区生活研究クラブ連絡協議会は、10グループの会員44名で、年2回の技術向上講座と移動研修を開催しています。1回目の技術向上講座は平成30年7月に「秋冬野菜の新品種と栽培技術について」(株)渡辺採種場瀬峰研究農場で開催しました。浅漬けに適したハクサイ、サラダにも向くダイコン、春まき秋取りのタマネギの新品種等に興味深く聞き入っていました。



移動研修は12月に七ヶ浜町の星陽子（星のり店）さんに講師をお願いし、こだわりの「海苔づくり」と直売を開始した経緯等について話題提供を受け、「海苔づくり」の体験会を実施しました。山・川（里、水田）、海のつながりを意識したこだわりの海苔づくりの異業種である星さんの取り組みですが、水田農業も影響を及ぼしていることに気づかされるとともに、差別化商品づくりが大切と農産物の直売や加工への取り組み意欲に刺激を受けた研修となりました。

### 北浦梨ブランド化研究会の活動紹介

平成30年6月3日、みどりの農協会館において、「北浦梨ブランド化研究会」の設立総会が開催され、会員6名のほか、美里町長、JAみどりの小牛田営農センター長、普及センター所長が来賓として出席し、研究会の設立を祝いました。研究会は、美里町北浦地区を中心に栽培している「北浦梨」を県内外の消費者に広くPRし、ブランド化することでより安定した収入を目指し、若手生産者を確保すること等を目的としています。



平成30年は、ロゴマークの設定、販売用パッケージの開発、賛同会員の募集、プレミアム梨の試験販売、蔵王町の「蔵王はるか会」への先進地視察等を行いました。試験販売では、報道等で取り上げられたこともあり、朝早くから購入を目的に来店されるお客様もおり、上々の評判でした。今後も、より多くのお客様にプレミアム梨を届けられるよう栽培技術の向上等について支援を行っていききたいと思います。

美里農業改良普及センターホームページでは、過去に発行した稲、麦、大豆、園芸の技術情報がご覧になれます。詳しくは、<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/siryositu18.html>まで！